

2021年度 教育施設等【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
① 教育施設計画「改訂キャンパス整備基本デザイン(2019)」に基づいた具体的方針を策定・公表し、内部質保証委員会において定期的な点検・評価の取り組みを実施する	①施設整備計画の3年目にあたり、施設整備を実施・公表した。内部質保証委員会においては、取り組みの初年度として点検・評価を行った	創立100周年にむけての計画概要には変更なし	①中長期的に策定されたキャンパス整備基本デザインの計画の枠組みで進められた。	2022年度学院の事業計画概要	①「改訂キャンパス整備基本デザイン」に基づき、令和4年度から次の3年の初年度として、全体骨子是不えずに目標達成に向けて順次整備を進める。
② 安全対策として、ふじみ野キャンパス東館学生ラウンジおよびW302の天井落下工事をおこなう。さらに、両キャンパスの施設修繕(空調設備、エレベーター更新等)工事の実施、継続をおこなう。	②本郷キャンパス図書館エレベーター更新工事、ふじみ野キャンパス東館学生食堂・W302教室天井落下防止対策工事を実施した。	100%	②更新工事は実施され、教育環境における安全対策は、計画通りに実施された。	2022年度学院の事業計画概要	②今年度に引き続き、キャンパス間の格差を無くし安全性向上に向けた教育環境整備の実現を行っていく。
③ エコキャンパス化の推進として、両キャンパスの教室照明および本郷キャンパスの仁愛ホールのLED化工事を実施する。	③本郷キャンパスB館・D館エレベーターホールと廊下、仁愛ホール舞台照明、ふじみ野キャンパス東館・西館研究室、中央館廊下および外構でLED化工事を実施した。	100%	③予定されたLED化工事は実施され、エコキャンパス化による教育環境の整備は計画通りにおこなわれた。	2022年度学院の事業計画概要	③今年度に引き続き、エネルギー効率の良いキャンパス環境の整備の実現のため、優先的に教室証明のLED化・空調設備工事を計画する。
④ 全面的な対面およびオンラインのハイフレックス授業の実施および教育のデジタルトランスフォーメーションに対応するための、ICT教育環境および支援体制を強化する。	④オンライン授業、ハイフレックス授業、対面授業を並列で実施するため、学内のインターネット帯域、学生待機場所のWiFi環境の整備、ハイフレックス授業形態導入のための機器整備などを行った。	100%	④コロナ禍が継続するなかで、多様な授業形態を支援するためのWiFi環境、機器整備等は、計画通りに進められた。	2022年度学院の事業計画概要	④対面授業への回帰に向けて、ICTインフラの継続的整備・運用を進める。また、両キャンパスの情報教育設備の統合・共通化をより一層進める。
⑤ 本郷図書館では看護学研究科の開設にともない、さらなる学習環境の向上と当該分野の資料収集に取り組む。ふじみ野図書館ではふじみ野市議会など地域連携の拡大、教育のデジタルトランスフォーメーションに対応した電子図書館化への機能性・利便性の向上のため整備を継続する。施設内での学習環境向上について検討する。	⑤本学の研究成果物をアーカイブ化し保存すべく、機関リポジトリの構築を検討が始まった。また、DX推進に向けて、DX推進室を設けることになった。	100%	⑤2021年度はアーカイブ化の検討開始の計画であり、その意味では達成された。具体的な始動は次年度以降となる。	2022年度学院の事業計画概要	⑤本学の研究成果物をアーカイブ化・保存し、広く社会に発信する文化の定着を通して、研究機関としてのブランディングに寄与を進める。

2022年度 教育施設等

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
①安全対策として、ふじみ野キャンパス東館アトリウムの天井落下工事の実施する。
②教育向上のため、本郷キャンパスS館およびD館スカイホール、ふじみ野キャンパス中央館教室等の視聴覚更新工事を実施する。
③本郷キャンパスC館・B館研究室および記念館、ふじみ野キャンパス中央館教室等のLED化工事を、ふじみ野キャンパス東館(図書館系統)・学生会館・西館(入浴実習室、流水プール室)で空調設備の更新工事を実施して省エネルギー化を図る。
④ICTインフラの継続的整備、両キャンパス情報教育設備の統合を進める。また、キャンパスあるいは在宅学習を含め、時や場所を問わず学生に適切な教育サービスを提供できる環境をさらに整備していく。
⑤機関リポジトリの構築を通して、本学の研究成果物をアーカイブ保存・公開できる環境の整備。また、教育のDX化に対応した電子図書館化への対応等の整備をしていく。
⑥研究促進のための環境整備として、科研費申請支援システムの導入のための準備を開始する。